KGA GOLFER'S NEWS

2023 夏号 No.140

一般社団法人 関東ゴルフ連盟

2023年KGA主催 決勝競技詳報

特集記事

ゴルフ振興委員会
新たなゴルフ振興事業の推進を目指して

ワールドハンディキャップシステム
倶楽部HDCP正副委員長座談会

コースセッティング
選手を育てるコースセッティング

関東ゴルフ連盟新体制についての
ご報告とご挨拶

小宮山義孝副理事長　　佐藤敏明理事長　　橋本泰子副理事長　　吉田裕明副理事長

3月9日の第7回定時社員総会後の臨時理事会に於いて、副理事長の3名体制、ならびに地域社会に密着したゴルフの普及・振興活動を活性化するための1都10県のエリアを担当する常務理事（24ページに掲載）制度導入の承認をいただきました。

ゴルフの普及・振興活動には、競技運営や各世代・女性向けの施策が含まれますが、KGAではこの幅広い活動を加盟倶楽部の皆様と共に進めてまいりたいと考えております。

一般社団法人　関東ゴルフ連盟
理事長　佐藤敏明

撮影／塚越克一副委員長

KGA GOLFER'S NEWS No.140
2023年7月31日発行
一般社団法人 関東ゴルフ連盟
Kanto Golf Association

1/ 関東ゴルフ連盟新体制についてのご報告とご挨拶

2/ 特集1 ゴルフ振興委員会
新たなゴルフ振興事業の推進を目指して

6/2023年KGA主催決勝競技詳報
関東女子ゴルフ選手権
関東アマチュアゴルフ選手権
関東グランドシニアゴルフ選手権
関東女子グランドシニアゴルフ選手権

14/特集2 ワールドハンディキャップシステム
倶楽部HDCP正副委員長座談会

18/特集3 コースセッティング
内藤正幸競技委員長と日本チャンピオン2人が語る
選手を育てるコースセッティング

22/新規加盟倶楽部のご紹介
セブンハンドレッドクラブ　　ザ セイントナイン東京

23/広報委員会委員長インタビュー

24/INFORMATION
新常務理事のご紹介
TKJ出身の吉田優利と馬場咲希が揃って戴冠！
2023年KGAジュニア・ゴルフスクール開講
前広報委員会参与　福島靖氏ご逝去

６月第１火曜日はWomen's Golf Day。KGAのゴルフ振興委員会「女性とゴルフ部会」の呼びかけに応え、多くの加盟倶楽部がイベントを実施。たくさんの女性が参加した。

編集／一般社団法人関東ゴルフ連盟広報委員会
統括／近藤勇樹（KGA広報委員長）
大竹　茂（KGA広報副委員長）
塚越克一（KGA広報副委員長）
久保田昌幸（KGA広報委員）
黒川秀昭（KGA広報委員）
鈴木一也（KGA広報委員）
高岡和弘（KGA広報委員）
冨澤　仁（KGA広報委員）
本條　強（KGA広報委員）
池田正一（KGA広報参与）
北川外志廣（KGA広報参与）
鈴木遍理（KGA広報参与）
古谷隆昭（KGA広報参与）

特集1 ゴルフ振興委員会

新たなゴルフ振興事業の推進を目指して

新しく関東ゴルフ連盟（KGA）に設けられたゴルフ振興委員会。委員長に就任した吉田裕明副理事長、ゴルフと健康部会長の福島範治理事、女性とゴルフ部会長の川﨑陽子理事に、すでに始まっている事業の展開や今後の活動方針を聞いた。

ゴルフ振興委員会の事業目的と活動内容

ゴルフ振興委員会が進める「ゴルフ振興」の目的と内容は、これまでのものとは若干違ったものになります。すでにゴルフをやっている人への働きかけが中心だった従来から、既存のゴルファーに加えて、まだゴルフを始めていない人に、ゴルフの良さ、魅力を伝えていく活動に改めて力を入れます。「ゴルフっていうのはいいものだな」とよい印象を持っていただく。そのことによってゴルフを通じて国民生活が豊かになっていくことにつなげたいのです。

その具体的な活動ですが、福島、川﨑の両部会長を中心に、すでに活発に動き始めています。

「ゴルフと健康部会」では、日本ゴルフ協会（ＪＧＡ）が９月に設定したゴルフ健康週間（今年は９月11日から17日）に、ＪＧＡ-ＷＡＧ（ウィズ・エイジング・ゴルフ）スクールの１Ｄａｙプログラムを１つでも多くの倶楽部で実施するための準備を進めています。

「女性とゴルフ部会」は、２０１６年にアメリカで制定されたＷＧＤ（ウィメンズ・ゴルフ・デイ、今年は６月６日）のイベントを関東各地で開催しました。今年は初めてにもかかわらず、数多くの倶楽部に参画していただきました。部会では、来年以降にもつなげていこうと、張り切っています。

吉田裕明委員長・談

ゴルフを通じて日本社会の課題解決の一助に

「ゴルフと健康部会」　福島範治部会長

――「ゴルフと健康部会」の部会長に就任されたお気持ちと今後への抱負を。

ゴルフを通じて健康を増進し、コミュニティ作りのきっかけともなるＷＡＧスクールの推進には従来からかかわってきました。これを広げていけるチャンスをいただいてうれしく思っています。気を引き締めて取り組んでいきます。

――まずはゴルフ健康週間に実施するＷＡＧ１Ｄａｙプログラムの実施にむけての準備が始まっています。

実施にあたっては、自治体の後援が条件となっており、この事業を進めていくためには地域との協力関係が重要なポイントになると考えています。私どもの会社では従来から「地域との共存」を大切にして、自治体とのつながりを深めてきました。ゴルフ場での花火大会や、子供たちへの食育イベントの実施など、鹿沼市、教育委員会、栃木県と一緒に進めてきています。こうした経験を生かして、自治体との関係作り、協力関係の構築に努めていきます。これを乗り越えることによって、ＷＡＧ１Ｄａｙプログラムの実施につなげたいと思います。

――ゴルフと健康というテーマはこれからの日本にとって大きな意味を持つのでは。

少子高齢化が進む日本において、ゴルフの持つ役割は大きいと思います。たとえば医療費、予防医学との関わりなど、ゴルフを通じて日本社会の課題の解決への一助ともなると考えています。そのためにもＷＡＧの活動を推進していくことが大事です。

――ＫＧＡ加盟の倶楽部に向けて、またゴルファーの皆さんへのメッセージを。

ＷＡＧの１Ｄａｙプログラムでは、１日でゴルファーのためのストレッチやゴルフ体験、参加者との懇談などが経験できます。健康増進や仲間作りにもつながります。その趣旨を１人でも多くの皆さんに理解していただき、１倶楽部でも、１人でも多くこの秋の健康週間に実施されるイベントに参画していただけるようお願いします。

女性に対して「ウエルカム」の雰囲気作りを

「女性とゴルフ部会」　川﨑陽子部会長

――一の宮カントリークラブ（千葉県）の副理事長である川﨑さんですが、「女性とゴルフ部会」部会長に就任されたお気持ちと抱負を。

部会長という大役を拝命してとても光栄です。同時に身の引き締まる思いです。女性にゴルフの楽しさ、魅力を伝える活動に取り組んでいきます。多くの女性が「６月第１火曜日はＷＧＤだよね」と覚えていただけるようなイベントにしていきたいです。

――事前にテストイベントも実施されましたね。

まずはやってみようということで、４月４日（第１火曜日）に一の宮ＣＣで開催しました。当日は５歳から70代まで20人以上の方が参加して、練習場でボールを打ったり、２ホールを回り、レディースランチを食べ、ゴルフ場で一日を楽しく過ごす。こうしたイベントを通じて女性がゴルフを始めるきっかけや再開するきっかけになると思いました。

――ＷＧＤの開催は日本で初めての試みですが、多くの倶楽部が開催に手を挙げてくれました。

さまざまなご事情がある中で、ＷＧＤの趣旨を理解して参画していただいたことに心より感謝しています。ゴルフの起源は止まったボールを打つことから始まりそこからルールが作られた様にＷＧＤも、まずは始めていくことが大事だと思います。内容も女性が対象であれば開催倶楽部ごとに自由です。みんなで作り上げていく中でＷＧＤのカタチができると思います。アンケートの実施、集計、分析をすることで、課題や問題点が明確になり、来年、再来年にもつなげていけると思います。

――女性のゴルファーを増やすために大事なことは。

まずはゴルフ場もゴルファーも、女性に対して「ウエルカム」の雰囲気を作り出すことです。そんなに難しいことではなく、微笑み、会釈一つ、そんなことから女性が「歓迎されている」と感じてくれるようになれば、大きな一歩だと思います。

――ＫＧＡ加盟の倶楽部、そしてゴルファーの皆さんにメッセージを。

継続は力なりです。まずはＷＧＤのイベントを多くの倶楽部が継続して開催することで大きな発信力になり、女性にゴルフを知ってもらい、参加してもらうことにつながります。ご事情があり、ＷＧＤを開催できない倶楽部でも、その日だけは特別に女性を歓迎するムード作りをお願いしたいと思います。

構成・文／古谷隆昭参与

WOMEN'S GOLF DAY

毎年6月第1火曜日は WOMEN'S GOLF DAY

WOMEN'S GOLF DAY

「WOMEN'S GOLF DAY」は女性にゴルフを始めてもらう、あるいは継続してもらうきっかけになることを目的に始まった活動で、毎年6月の第1火曜日に世界的に実施されています。日本では、今年初めて5月30日～6月6日に開催。関東ゴルフ連盟では加盟61倶楽部が実施。延べ約1000名が参加されました。参加者は未経験者から初心者、ベテランまで、年齢は幼児から70代過ぎまで幅広い層で、ゴルフ未経験の従業員が加わった倶楽部もありました。参加者へのアンケート調査では97%の方が「楽しかった」と回答。女性のゴルフ参加率アップを促す、良いイベントになったと考えています。

新潟県

笹神五頭ゴルフ倶楽部
(6月5日)

胎内高原ゴルフ倶楽部
(6月6日)

ヨネックスカントリークラブ
(6月6日)

新津カントリークラブ

松ヶ峯カントリー倶楽部
(6月6日)

長野県

豊科カントリー倶楽部
(6月6日)

サニーカントリークラブ
(6月6日)

立科ゴルフ倶楽部
(6月11日)

群馬県

赤城ゴルフ倶楽部
(5月30日)

栃木県

東松苑ゴルフ倶楽部
(5月30日)

太平洋クラブ佐野ヒルクレストコース
(6月6日)

セブンハンドレッドクラブ
(6月４日/6日)

鹿沼カントリー倶楽部
(6月6日)

茨城県

宍戸ヒルズカントリークラブ
(6月1日～４日)

水戸グリーンカントリークラブ

ロックヒルゴルフクラブ
(6月1日～13日)

ゴルフ5カントリーかさまフォレスト
(5月30日～6月6日)

ゴルフ5カントリーサニーフィールド
(6月6日)

静ヒルズカントリークラブ
(6月4日)

フレンドシップカントリークラブ
(6月6日)

埼玉県

嵐山カントリークラブ
(6月6日)

日高カントリークラブ
(6月3日)

大宮ゴルフコース
(5月30日)

日本カントリークラブ
(6月4日)

飯能グリーンカントリークラブ
(6月6日)

久邇カントリークラブ
(6月4日)

鳩山カントリークラブ
(6月6日)

入間カントリー倶楽部
(6月6日)

狭山ゴルフ・クラブ
(6月3日)

鴻巣カントリークラブ
(6月6日)

霞ヶ関カンツリー倶楽部
(6月6日)

長瀞カントリークラブ
(6月1日)

高根カントリー倶楽部
(6月6日)

山梨県

上野原カントリークラブ
(6月1日)

富士レイクサイドカントリー倶楽部
(6月6日)

桜ヒルズゴルフクラブ
(6月5日)

東京都

青梅ゴルフ倶楽部
(8月15日予定)

千葉県

一の宮カントリー倶楽部
(6月6日)

コスモクラシッククラブ
(6月4日)

姉ヶ崎カントリー倶楽部
(6月5日)

ザ・カントリークラブ・ジャパン
(6月6日)

神奈川県

程ヶ谷カントリー倶楽部
(6月6日)

横浜カントリークラブ
(6月6日)

葉山国際カンツリー倶楽部
(6月6日)

箱根カントリー倶楽部
(6月5日～6日)

小田原ゴルフ倶楽部松田コース
(6月6日)

赤羽ゴルフ倶楽部
(5月30日～6月6日)

香取カントリークラブ
(6月6日)

房総カントリークラブ
大上ゴルフ場

千葉夷隅ゴルフクラブ
(6月6日)

カレドニアン・ゴルフクラブ

静岡県

東名カントリークラブ
(6月6日)

太平洋クラブ御殿場コース
(6月6日)

太平洋クラブ御殿場ウエストコース
(6月1日～2日)

中伊豆グリーンクラブ
(5月30日～6月6日)

桜ヶ丘カントリークラブ
(6月6日)

紫カントリークラブ
すみれコース(6月6日)

本千葉カントリークラブ
(6月5日)

立野クラシック・ゴルフ倶楽部
(6月6日)

鶴舞カントリー倶楽部
(6月6日)

5月13日（土）～5月16日（火）
エントリー：128名　出場：123名

5月16日の天候：晴れ　気温：24.0度
風向：西南西　風速：3.9m/s

競技詳報 »»

❶空気が澄んだ日には遠く駿河湾まで見渡せる15番パー４のティーショットを放つ飯島選手。
❷橋本泰子KGA副理事長から優勝プレートを授与。❸４日間、ダブルボギーなしの安定性。

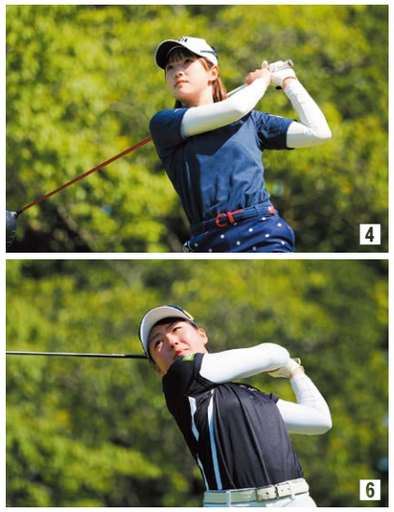
初の4日間（72ホール）競技での選手権 オーバーパーを唯一打たなかった 飯島早織が制覇！

雨天続きのタフなコンディションを キャディーの経験で得たコースマネジメントで克服。 安定したスコアで笑顔の勝利。

今年から４日間競技になった選手権の舞台は静岡県のグランフィールズカントリークラブ。富士山と駿河湾が望める美しいコースは、３日目までは雨に見舞われて６つのホールでティーマーカーを前方に設置してヤーデージを変更してのラウンドだった。晴れて富士山が顔を出した最終日は、6566ヤードで行われ、18歳の飯島早織選手（扶桑）が６アンダー、282ストロークで初優勝を飾った。３打差の２位には、前半９ホールで１イーグル、５バーディーの29をマークして驚異的な追い上げを見せた16歳の松原柊亜選手（TEAM KGAジュニア）が食い込んだ。

内藤正幸・競技委員長が「４日間競技の最終日。晴れてグリーンも速くなるコースをどう乗り切ってくれるか期待しています」と話したファイナルラウンドを、飯島選手は、２バーディー、２ボギー。ただ一人、４日間を通じてオーバーパーを出さなかった。ポイントになったのは長くて左右の２段グリーンが難しい14番パー３（191ヤード）だった。第１打をグリーン左のラフに外したが、アプローチを１メートルにつけてパー。「グリーンが速いのはわかっていたので、カラー部分に落としたアプローチが寄ってくれた。パットも真ん中から入れることができた」と、最終日平均スコアが3.60の難関ホールを見事にパーで切り抜けて、勝利を引き寄せた。

４日目に初めて顔を出した富士山。



❹第４ラウンドに65をマーク、２位まで追い上げた松原柊亜選手。❺３位は、昨年の日本ジュニア（12～14歳の部）優勝の長澤愛羅選手。❻❼４位タイの中澤瑠来と伊藤二花の両選手。

最年長出場：吉田茜（姉ヶ崎）

吉田茜選手は昨年の関東女子倶楽部対抗決勝の最優秀選手でもある。

ホールインワン：臼井蘭世（JGM セベバレステロス）

第４ラウンドの７番パー３でホールインワンをマーク。グランフィールズＣＣの伊藤隆明支配人から記念品が授与される。

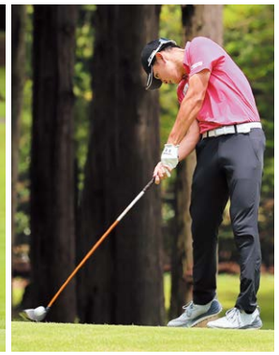
この選手権で一昨年10位、昨年７位タイだった飯島選手は「難しいコースが舞台になるので、チャンスがくるまで、もったいないボギーをどう減らすかを考えた」という。難関コースとして知られる茨城の大洗ゴルフ倶楽部でキャディーを経験するうちに、「第１打を曲げないこととコースマネジメントの大切さを学んだ」。安定したショット力とピンチを切り抜ける冷静さ。その成長は、今年３月の全国高等学校ゴルフ選手権の優勝、本選手権の制覇へとつながった。「今年の１番の目標は初めて挑戦するプロテストの合格」と言葉に力がこもる。

日本へ世界へと次々に若い選手を輩出する関東女子ゴルフ選手権。飯島選手だけでなく、２位の松原選手も「次のステップに向けて大きな自信になる」と手ごたえをつかんだ。最終日に顔を出した冠雪の富士山とコースを彩る新緑の若葉が、伸び盛りの彼女たちを励ましているように見えた。

決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	3R	4R	Total
1	飯島 早織	扶桑	70	70	70	72	282
2	松原 柊亜	TEAM KGA ジュニア	72	74	74	65	285
3	長澤 愛羅	TEAM KGA ジュニア	70	73	75	71	289
4	中澤 瑠来	那須小川	72	70	76	72	290
	伊藤 二花	TEAM KGA ジュニア	70	70	70	80	290

撮影／大竹茂副委員長、北川外志廣参与　取材・文／古谷隆昭参与



1

日本大学１年の岩井光太「攻め」に徹し、完全優勝

いま、女子プロゴルフ界を席巻する岩井ツインズの弟・光太が初KGAタイトル

2

①日本大学のチームメートたちからの祝福のシャワーを浴びる岩井選手。②佐藤敏明KGA理事長から優勝盾を授与。

今年の女子プロゴルフツアーで、史上初めて同一年に姉妹優勝を果たした岩井明愛（あきえ）、千怜（ちさと）の岩井ツインズ。二人の２歳下の弟、岩井光太選手が、「関東」と名が付くビッグタイトルを初めて獲得した。

圧巻のゴルフだった。初日から最後までトップを走り続けた完全優勝。トータル16アンダーは、従来の記録を５打も更新する関東アマチュアゴルフ選手権決勝競技の最多アンダー記録だった。

最終日の第４ラウンド。２位に６打差のリードを持ってスタートしたが、１番でいきなりダブルボギーをたたいた。これまで、関東、日本のタイトルとは無縁だっただけに、一気に崩れてもおかしくない状況だ。

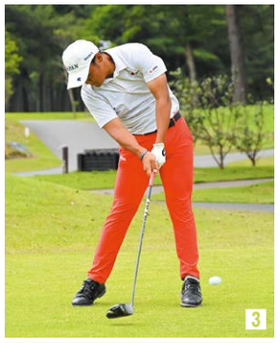
だが、本人は「焦らないことを自分に課していた」と言い、次の２番でバーディー。２位以下に付け入る隙を与えないゴルフを展開していった。

今年、日本大学に進学した18歳。ドライバーの飛距離は平均290ヤードを誇る。これまでは、ショットが左右にぶれることがあったが、「守ることより、攻める」「大事に行こうとは思わない」という若者らしい信条を貫く。その言葉通りだったのが、最終18番（パー５）のティーショットだ。２オンを狙った第２打の残り距離が202ヤードだったというから、単純計算で320ヤード飛ばしたことになる。女子プロツアーのプレーオフで、姉たちが第２打でドライバーを使う「直ドラ」の競演を見せて話題となったが、弟の攻めの姿勢も見事だった。「お姉さんたちが大活躍して、焦ることはないか」という少し意地悪な質問をしたが、「自分は自分だと思っています。（ゴルファーではなく）家族として、姉たちの活躍はうれしい」と答えた。

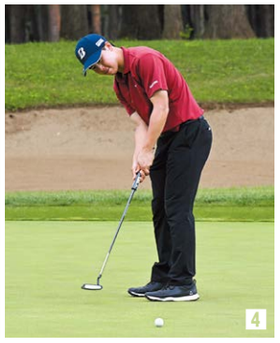
現在、男子のプロツアーは、試合数、人気とも、残念ながら女子ツアーに遠く及ばない。優勝した岩井選手、そして最後まで諦めずに見事なプレーを続けた本大志選手（ナショナルチーム）ら若いアマチュア選手が、さらに切磋琢磨し、将来の男子プロゴルフ界を背負う存在になることを願う。

決勝競技入賞者

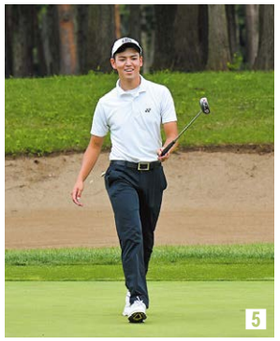
ランク	名前	所属	1R	2R	3R	4R	Total
1	岩井 光太	関東ジュニア	65	66	65	68	264
2	本 大志	ナショナルチーム	69	65	68	67	269
3	竹原 佳吾	早稲田大	67	69	68	68	272
	小林 翔音	TEAM KGA ジュニア	66	68	69	69	272
5	佐藤 快斗	TEAM KGA ジュニア	68	70	68	67	273
	塚越 光玖	那須小川	70	65	70	68	273



3



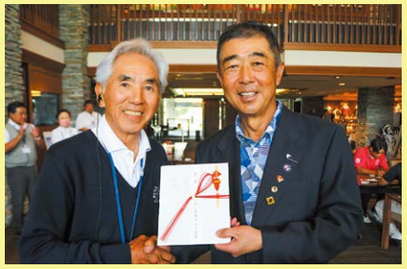
4



5

❸昨年優勝の本大志選手が今年も活躍し、２位入賞。❹❺３位タイの竹原佳吾と小林翔音の両選手。

決勝競技最多出場記録更新 澤田信弘が特別表彰



澤田信弘選手（茨城、60歳）は36回目の決勝競技出場。アマチュアゴルフ界の「レジェンド」と呼ばれた阪田哲男氏が持つ最多記録35回を更新。その功績を称える「特別表彰」を内藤正幸競技委員長から授与された。

最年長出場の杉山稔 日本アマ出場権獲得！

61歳、シニアの年齢の杉山稔選手（総武）が、大学生、高校生の飛ばし屋に伍して戦い、24位。見事、日本アマチュアゴルフ選手権競技の出場権を獲得した。

「この選手権の出場は、2019年以来。久々の４日間競技なので、最終日は体が重くて」とぼやきながらも、7000ヤード、パー70のタフなコース設定を、技術で克服してみせた。

「力むので、学生たちのスイングや、はるか先まで飛んでいく球を見ないようにしていた」と苦笑いしたが、元々、無駄な力が入らず、軸がぶれないスイングの持ち主だ。

ゴルフ練習場を経営していて、アマチュアゴルファーにいつも言うアドバイスが「ゴルフの一番の目的はスコアメーク。飛ばすことより、アプローチやアイアンの練習に時間をかけたほうがいい」ということだ。そのアドバイスの正しさを、自ら実証してみせた４日間でもあった。

撮影／塚越克一副委員長、池田正一参与　取材・文／高岡和弘委員

5月23日（火）～5月24日（水）
エントリー：127名　出場：117名

5月24日の天候：晴れ　気温：22.2度
風向：北西　風速：3.5m/s

競技詳報 >>>

❶エージシュートを逃し、天を仰ぐ。❷吉田裕明KGA副理事長から優勝杯を授与される田村敏明選手。

2019年、22年の関東ミッドシニア選手権に続く３勝目。

「日本一に一歩近づいたと思う」田村敏明が３冠目のKGAタイトル

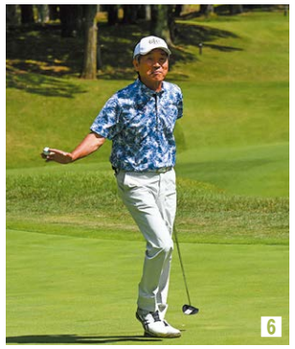
選手層の厚いKGAのグランドシニア勢。勝ち切った田村は次に２度目の日本タイトルを狙う。

２位に４打差をつけて迎えた最終18番パー４（399ヤード）。残り148ヤードの第２打を１・５メートルにつけた田村敏明選手のバーディーパットは惜しくもカップをかすめた。天を仰ぐ田村選手（写真①）。実は前日５月23日に71歳の誕生日を迎えていた。「少し引っかけた」。エージシュートを逃しての苦笑いだった。

堂々の関東グランドシニア初制覇だ。雨天の初日を２オーバー74で回り、最終日は73歳の平石定夫選手と並ぶ首位タイでスタート。８、９番の連続バーディーで２打差をつけたが、平石選手が10番でバーディーを決めて再び１打差に。それでも「慌てずに自分のゴルフをしていけば」と、再び徐々に差を広げ、全長約6500ヤード、パー72の難コースを４バーディー、４ボギーのパープレーでまとめた。

70歳以上で争われる選手権をデビュー２年目で制し、「早いうちに勝っておきたかった」。新潟県湯沢町出身で、元スキー選手。法政大２年時に全日本学生選手権のスキー滑降で優勝し、ゴルフでも2017年日本ミッドシニア選手権を65歳で優勝した。ただ、所属の小千谷カントリークラブでは支配人を務め、ラウンド練習も月に数えるほどしかできず、ままならない。そのような環境でもランニングと週１度のジム通いで体力の維持、強化だけは怠らなかった。

❸第１ラウンドでトップタイに立った平石定夫選手が2位。❹３位は第２ラウンドを72で回った戸祭康夫選手。❺❻❼４位タイの那波芳比古、富田文雄、阿部逸朗の各選手。



関東シニア選手権以降の決勝競技10回と15回出場の特別表彰。左から浅川辰彦（10回）、冨田久三（15回）、金澤正幸（15回）、戸祭康夫（10回）の各選手。

エージシュート達成。左から富田文雄、西田豊明、金澤正幸、似田幹男（写真左も。81歳の最年長出場選手）、吉田博史、山本五郎の各選手。

その支配人も５月限りで退任。次の目標は、もちろん日本グランドシニアの制覇だ。関東４位から出場した昨年は、優勝した宮辰夫選手に２打及ばず３位。その宮選手は今競技でスコア誤記による過少申告を自己申告して失格に。関東勢の３連覇を託されて「関東のグランドシニアは選手層が厚い。それを優勝できて、日本一に一歩近づいたと思う」と、スキーを含めて３つ目の日本タイトル獲得に意欲を見せた。

２位の平石選手も、勝負どころの17番パー３でティーから落ちたボールを打ってチョロになるアクシデントさえなければ、優勝の行方は分からなかった。

一方で今競技の最高齢だった81歳の似田幹男選手は悪天候の初日こそ89だったが、最終日は80と健闘して自身86度目のエージシュートを達成。エージシュート達成者は他に９人を数え、関東のグランドシニア層は強者ぞろいであることを、あらためて示した。

決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	Total
1	田村 敏明	小千谷	74	72	146
2	平石 定夫	都留	74	76	150
3	戸祭 康夫	日光	79	72	151
4	那波 芳比古	藤岡	80	73	153
	富田 文雄	茨城	79	74	153
	阿部 逸朗	東京よみうり	77	76	153

撮影／塚越克一副委員長、久保田昌幸委員　取材・文／鈴木邉理参与

関根穂美 無欲で掴んだ 初のKGAタイトル

1

2

3

4

日本タイトル制覇の強豪ひしめくこのクラス。フィニッシュ後、思わぬ「勝利の報」に歓喜の涙。

❶❷周囲から優勝を知らされた関根奈穂美選手は「エッ！　私なんですか!?」と驚愕。競技仲間たちにハグされ、涙していた。❸2位は第2ラウンドのベストスコア78をマークした田中真弓選手。❹3位に入賞したカヤット朱美 中田選手。

5

6

❺「70歳以上の部」1位の増田京子選手（右）。このクラスの競技者でもある橋本泰子KGA副理事長から記念品を授与。❻最年長出場選手の山口八重子選手（84歳）。❼関東女子シニアゴルフ選手権以降の決勝競技10回出場の特別表彰選手たち。

7

今年60歳になるグランドシニアルーキーから最年長は84歳までの118人が決勝競技に出場。緑豊かな千葉県の鶴舞カントリークラブ（5680ヤード、パー72）を舞台に、2日間36ホールのストロークプレーの決勝が行われ、関根奈穂美選手が154ストロークで初優勝を果たした。2打差の2位に田中真弓選手、3打差の3位にカヤット朱美中田選手が入り、70歳以上の部は増田京子選手が164ストロークで1位だった。

試合は、グリーンの速さと時おり強くなる風がスコアメイクを難しくして大接戦の展開。最終18番を2打差の首位で迎えた関根選手は、距離370ヤードで、グリーンを狙う2打目には大きな木が立ちはだかる難関ホールを見事に2オン2パットのパーで締めくくって優勝を引き寄せた。しかし、この時、本人は「前の組に上手な人がたくさんいるから（優勝は）私じゃないと思っていた」そうで、関係者から知らされると、「エッ！私なんですか!?」と驚きの後、仲間の祝福を受けて、初めて笑顔が弾けた。高校、大学時代はバレーボールの選手。結婚を機に「夫から一人でできるスポーツだから」と勧められて30歳でゴルフを始め、関東女子シニアゴルフ選手権からの決勝競技に通算10回出場の特別表彰の年に、初の栄冠に輝いた。「優勝は思ってもみなかったです。それがよかったのかも」と振り返り、「仕事や家事をやりくりしてゴルフをするのは大変なこともあるけど、それがまた楽しみになる。仲間に会える競技会にまた来年もと思う」という。

3位のカヤット選手は今年からグランドシニア入り。これまで、ジュニア、ミッドアマ、シニアの世代でタイトルを獲得して、今回は4世代制覇を狙った選手権だった。「息子のシカゴ大学の卒業式が先週の土曜にあって、その足で空港に行って日本に飛んで月曜から試合。スケジュールが厳しくて、後半はきつくてダメでした。でも、もちろん来年も挑戦します」と言葉に力がこもった。

仲間と励ましあい、明るく元気な笑顔と歓声が会場を包んだ競技会。選手たちが口を揃えた合言葉は「また来年挑戦します」だった。

決勝競技入賞者

ランク	名 前	所 属	1R	2R	Total
1	関根 奈穂美	セントラル	75	79	154
2	田中 真弓	成田東	78	78	156
3	カヤット朱美 中田	袖ヶ浦	75	82	157
4	加藤 仁美	塩原	80	79	159
5	平野 いずみ	南摩城	82	78	160

最終日は Women's Golf Day

2016年にアメリカで提唱されて世界に広がった6月第1火曜日をWGD（ウイメンズ・ゴルフ・デイ、女性とゴルフの日）とする運動を日本ゴルフ協会（JGA）が今年から全国で展開を開始。関東ゴルフ連盟（KGA）の関東女子グランドシニアゴルフ選手権の最終日がピタリとこの日にあたり、会場の鶴舞CCでは、KGAと倶楽部の協力で、WGDの横断幕や赤い風船のポップで装飾した撮影ポイントが設置され、選手にはハート型うちわやWGDマーク入りの赤いマーカーが配布された。

スタート前やラウンド後には選手たちが次々に撮影スポットで、それぞれのスマートフォンで記念写真を撮り合って、「映えるね」と盛り上がり、笑顔があふれ、元気な女性ゴルファーたちが集う競技会はWGDを発信する絶好の舞台となった。選手権優勝の関根奈穂美選手は「ゴルフをする若い人や女性が多くなってきている時代。WGDが来年以降もどんどん広がっていってほしいです」とイベントの盛り上がりに期待していた。

記念グッズを配布する「女性とゴルフ部会」川﨑陽子部会長（左）。

撮影／大竹茂副委員長、黒川秀昭委員　取材・文／古谷隆昭参与

眞々田恒久　紫カントリークラブすみれコース競技・ハンディキャップ副委員長、KGAハンディキャップ普及部会委員

水谷直矢　程ヶ谷カントリー倶楽部・ハンディキャップ委員長、KGAハンディキャップ普及部会委員

渋井信行　関東ゴルフ連盟（KGA）ハンディキャップ委員会副委員長、ハンディキャップ普及部会長

井口恒雄　諏訪湖カントリークラブ・ハンディキャップ委員長

小川 裕　武蔵カントリークラブ・ハンディキャップ委員長、KGAハンディキャップ普及部会委員

WHS導入の現状と今後の課題

昨年4月、日本に導入されたワールド・ハンディキャップ・システム（以下WHS）。既に競技にWHSを導入している倶楽部と、導入を検討している倶楽部のハンディキャップ担当者が話し合い、普及のための問題点とその解決策を探った。（司会・進行　渋井信行普及部会長）（敬称略）

渋井部会長　WHSが導入されて1年以上たちました。ただ、競技にWHSを使用している倶楽部は、まだ多くないのが現状です。本日の皆様のお話が、導入を検討されている各加盟倶楽部の参考になればと願っています。まず、各倶楽部の現状について、お話しください。

眞々田恒久（紫CC）　WHSの基本的な考え方であるインデックス自体は、前身であるJGA-USGAハンディキャップシステムの時から倶楽部に入っていました。ただ、当時の競技は、倶楽部ハンディキャップで運用されていました。飛ぶからとか、昔うまかったからなどの理由でハンディキャップが決まっている状態でした。そのため、表彰される人が偏り、年配の方や女性の入賞者が非常に少ないなど、様々な問題点がありました。当時の競技委員長の賛同を得て、2019年から、研修会にインデックス、スロープレーティングを試験的に導入したところ、実力に見合ったハンディキャップになっていきました。20年4月から月例競技に導入し、21年4月からは、年間約40の競技のほぼすべてがインデックスを使って運営されるようになりました。22年4月、WHSが導入されたのに伴い、WHSに切り替えました。競技の行われる月の1日現在のインデックスを適用し、参加人数に応じてアローワンスを決めています。

渋井　WHSを使用して競技を行っている武蔵CCの状況はいかがですか。

小川裕（武蔵CC）　当時の理事長の指示もあり、15年から、祝日の2競技で試験的にインデックスを使用しました。16～18年の3年間は、インデックスを祝祭日の全競技に使い、倶楽部ハンディキャップとの平均ネットの差異を算出しました。武蔵には、豊岡コースと笹井コースがあり、さらに豊岡は2グリーン制です。インデックスを使ってみると、平均ネットの数値は、コース、使用グリーンによって、かなりのばらつきが出てきました。WHS使用に疑問の声が出て、19年には競技入賞者については、インデックス算出に適用するスコアカードの数を一定期間少なくするという独自の規定を作りました。必然的にハンディキャップが減り、次回は入賞しにくくなります。21年1月からは、JGA-USGAハンディキャップシステムの中のアローワンスを初めて導入しました。昨年4月から、全競技にWHSを導入し、今アローワンスは95％で競技を行っています。ハンディの多い方にも入賞のチャンスが出てきたので、あまり競技に参加されなかった方々も出てこられ、楽しむようになりました。また、好きなティーイングエリアを選べますので、面白くなったのではないかと感じます。

渋井　コースや使用グリーン、使用ティーが違うと、事務作業が大変ではないですか。

小川　だいぶ慣れました。前月1日時点でのインデックスに基づいたハンディキャップを適用して競技を行っています。AとBでクラス分けをしている競技がいくつかあり、最新のインデックスを使うと、その日によってAとBの境をどうするかを決めなくてはいけないという問題が出てきますので。

渋井　アローワンスはどうされていますか。

小川　委員会で案を出して、理事会で決議しています。平均ネットスコアが80前後に収まるようにアローワンスを設定すると、優勝スコアは68から70台前半に収斂します。

WHSによる倶楽部競技の実際

渋井　ありがとうございました。程ヶ谷CCもかなり進んだシステムを使われていると聞いています。

水谷直矢（程ヶ谷CC）　うちは、WHSを部分的に導入していると言えば良いのでしょうか。14年から、ほぼ全会員がJGAハンディキャップインデックスを取得するように手配しましたが、倶楽部に本人から提出されたスコアカードのみを倶楽部ハンディキャップ査定の対象としていましたが、現在は、本人がJ-sysに入力したスコアや他倶楽部で入力されたスコアも査定の対象となりました。と言うことで、WHSの理念・数字（インデックス）を基にはしていますが、種々の変更を加えているため、部分的に導入していると申し上げた次第です。ちなみに、当倶楽部では年間52競技が行われていますが、そのうち倶楽部側で組み合わせを決定する21競技については、当日の使用ティー（ただしグリーンはA）のスロープによって算出されるハンディキャップを使用。その他の競技は倶楽部ハンディキャップを使用しています。

渋井　ありがとうございました。井口さんの所はいかがですか。

井口恒雄（諏訪湖CC）　皆様のお話と私どもとでは、差があると感じました。諏訪湖では、倶楽部ハンディキャップですら、取得している会員は全体の半分ほどです。他の倶楽部でシングルだから、そのままシングルにしてくれないかと言ってくる方がおられ、その数字で競技に出場するとハンディがおかしムを使っていました。その後、22年10月までは倶楽部のシステムに変更を加え、倶楽部ハンディキャップとJ-sysから算出されるハンディキャップとの差が縮まるようにしました。ただ、競技で大幅なアンダーで優勝・入賞するケースの多発を懸念し、競技査定等による調整を行うことで、優勝者・入賞者が偏らないように致しました。22年4月からのWHS導入開始を受け、倶楽部内で検討を重ねた結果、WHSに織り込まれた新しい考え方を倶楽部のシステムにそのまま入れ込むのは困難と判断し、同年11月からJGAインデックスによるレギュラーティー・Aグリーンでのスロープを使い、WHSの方式で算出した数字を倶楽部ハンディキャップとしました。ただし、毎日インデックスが変わるWHS方式は対応が難しい上に必要ではないということで、定期見直しの頻度は従来通り年3回に留めています。また、WHSだけでは優勝者・入賞者の偏りが防げないと考え、競技査定を残しております。なお、従来は倶楽部に本人から提出されたスコアカードのみを倶楽部ハン

いのではという声が出たりします。WHSを使えば、他倶楽部から来た方のハンディも自動的に決まりますから、個人的にはWHSへの移行を願っています。ただ、皆様のお話を聞いて、完全に移行するまでの道のりは遠いかもしれないとも受け止めました。うちの会員たちは、よそでプレーをした時や試合に出る時に、倶楽部ハンディが使えないということも分かっていません。WHSのインデックスを使えば、よそでもそのハンディが認められますと訴えて理解を求めていくことからスタートしていこうと思いました。

渋井　皆様の話を聞いていると、理事長などが導入に強い意思を示し、事務局が動くとWHS導入ができると感じました。

眞々田　WHSだと、すごいアンダーが出る懸念があるという話がありましたが、うちでは、そういうことが起きていません。最初、私もわからなかったのですが、うちの倶楽部もA、B、2つのグリーンがあり、ティーは5か所で、全部で10通りになります。一番後ろのティーでAグリーンを使った場合のコースレートが75・1で、一番やさしいティーだと68ぐらいになります。（JGA-USGAシステム時代に）最初、Bグリーンで月例をやると大きなアンダーが出て、Aグリーンだと出ないということが起きました。最初、私も気が付いていなかったのですが、コースハンディキャップの仕組みというのは、そのコースレートで回るためのハンディキャップだったのです。72で回るためではなくて、75で回るためのハンディキャップ、あるいは68で回るためのハンディキャップでした。だから当然、68のコースで試合をした場合は、大きなアンダーのスコアが出てくるは当たり前の事でした。それがWHSになって、コースハンディキャップを決める際、72からコースレートを引くという計算式が入ってきましたので、だいぶ違ってきました。すごく調子が良かったとしても、10アンダーが出ることはほとんどなく、せいぜい68、69に収まっています。

井口　私どもは、ハンディ13以下から、競技はバックティーを使います。他の倶楽部でも委員長をやりましたが、そこは10以下です。統一できないものかと常々、考えていました。WHSに移行すれば、解決されるのではと思いました。

眞々田　うちのハンディキャップ競技は、5か所のティーのどこを選んでもいいのです。高齢になって6800ヤードは無理だと言っていた人が、5800ヤードでプレーできるようになって参加されるようになりました。逆に、ローハンディの人も、これまで出ていなかった月例や理事長杯に出場して一番後ろのティーからプレーするなど、参加人数も顔ぶれも変わってきました。

渋井　私の所属する千葉カントリーでは、WHSの考え方を取り入れてはいますが、以前からのコンピューターシステムから離れられないでいます。直近10枚のベスト5を見て、倶楽部ハンディキャップを出しています。一方で、WHSへの移行を見据えなければいけないというので、1年半ほど前からインデックスを持たない人は競技に出られないようにしました。現在、1700人の会員が、インデックスを取得しています。今、倶楽部のハンディキャップ委員会は、千葉カントリーの方式で出てきたインデックスとWHSのインデックスを比較し、差異がどの程度あるかを調べています。春分の日杯という競技を、インデックス、スロープレーティングを使い、アローワンスを90にして競技を行いました。梅郷コース、野田コースとも大きなアンダーは出ず、きちっと管理すれば、WHSでも変な数字は出ないという認識になりました。まだ、道半ばですが、WHSに一歩一歩近づいているところです。

スコアカード提出に関する課題

眞々田　WHSでは、すべてのラウンドのスコアを提出することになっています。これは基本中の基本です。今年4月の月例から、組み合わせ表に、すみれの来場回数に対してスコアが何枚出ているかという、参加者ごとの提出率を表示しました。

水谷　うちは、提出率を70％以上にすることを目標にしています。スコアカード提出促進チームを作り、様々な活動をしています。通常のスコアカードのほかに提出用のスコアシートを作り、キャディーさんがそのシートを必ずプレーヤーに渡してもらう運動をしています。また、メタルのキャップを作って、提出促進に賛成の方には無料で差し上げて、付けてもらうこともしています。ホームページには、各会員のスコア提出率を掲載しています。もう一つのポイントは、検証です。WHSは、スコアを提出してインデックスが出て、スロープをかければハンディキャップが出ます。その数字がおかしくないかを検証する責任が、ハンディキャップ委員会にはあります。ただ、検証といっても、事務局の計算ミスなどを直すことと、スコア提出率が低い方にペナルティーを科すことくらいしかないのではと感じています。うちは年3回、定期検証をして、その際、競技査定を別途やることによって、ネットスコアが暴れることを防ぐように補正しています。競技査定をする際、スコア提出率が低い方にはある程度、厳しく見るようにしています。

小川　先ほど、事務方は旧システムを使いたがるという話がありましたが、J-sysから旧システムへのデータの移動ができます。私どもも独自のシステムを持っていますが、スコアカードやインデックスのデータを一括で移動することで、機能しています。エキスパートが一人でもいれば可能です。

井口　長野県内でアンダーハンディキャップの試合を増やしていけば、普及は進むと思います。今、若い会員が増えてきて、その中にはハンディキャップの取得を願っている方がいます。「他でも通用するハンディが欲しい」というニーズはあると思います。

小川　お話を聞いていると、程ヶ谷さんは簡単にWHSに完全移行できそうですね。

水谷　準備はできています。皆さんのご納得がいただければ、いつでも移行できます。ただ、うちはまだけっこう暴れた数字が出てきます。この前の創立記念杯は約200人が参加しましたが、1位の方はネット65ぐらいでした。2位は68でした。

眞々田　65が出た時のコースレートは、いくつの設定だったのですか。

水谷　69・5でしたか。程ヶ谷では2番目に短いティーでした。

眞々田　69・5で65でしたら、72だったら67か68前後でしょうから、それほどすごい数字ではない気がします。

水谷　あと、うちの課題は、競技はすべて同じティーを使用しています。違うティーからやりたいという声は会員の中にすごくありますが、今のところ事務局も含めて抵抗感が強いですね。

導入に欠かせない事務局の協力

眞々田　うちの競技では、申込みの段階でプレーするティーを書きます。ただ、その日、天気がいいから後ろのティーからやりたいと思えば、その逆も含めてOKです。ですから、当日朝、決められます。

小川　うちは、基本がレギュラーティーになっています。レギュラーティー以外でやりたい人だけ、朝、印を付けて名前を書いて提出します。

水谷　そうするとマスター室は大変ですね。

小川　マスター室では全員がスタートした後に、誰がどのティーということを登録しているので間に合います。

眞々田　朝の段階で、出場者の名前と使用ティーとプレーイングハンディキャップの一覧が出ます。予定していたティーを変更した人は、後で修正します。

水谷　先に登録しておいて、変えた人だけ後で修正していくことなら対応できるかもしれません。

渋井　皆様の話をお聞きして、ポイントは、なるべく多くの方にインデックスを取得してもらうこと。スコアカードの提出率を上げるために我々がどう啓蒙していくか。さらに事務局の協力をどう得るか。この3つがWHSを普及させるポイントだと思いました。WHSを採用したことで、倶楽部内競技が活性化したという話もありました。世界統一基準であるWHSを、関東ゴルフ連盟の加盟各倶楽部が利用してプレーヤーの満足度を上げ、KGA主催競技などにも参加する人が増えていくことを願っています。本日はありがとうございました。

構成・撮影・文／高岡和弘委員

特集3 コースセッティング
内藤正幸競技委員長と日本チャンピオン2人が語る

選手を育てるコースセッティング

近賀博子

内藤正幸

水上晃男

日本ゴルフ協会（JGA）が主催した2022年の選手権競技は、関東勢の活躍が際立った。選手層の厚さはもちろんのこと、関東ゴルフ連盟（KGA）主催の競技におけるコースセッティングによって力がつき、日本タイトル獲得につながったという声も選手たちからは聞かれる。関東勢躍進の背景をコースセッティングに光を当て、KGA競技委員会の内藤正幸委員長（68）、22年度日本シニア覇者の水上晃男選手（56＝千葉・鷹之台CC）、同日本女子ミッドアマ、日本女子シニア優勝の近賀博子選手（53＝埼玉・久邇CC）の3人に語ってもらった。（司会・構成＝鈴木遍理広報委員会参与）

――2022年のJGA主催競技は、今回の鼎談に参加していただいた水上選手、近賀選手をはじめ、関東勢から優勝者が多く出ました。

水上晃男　確かに日本ミッドアマは豊島豊選手（東千葉CC）、日本ミッドシニアは室野歩選手（同）、日本グランドシニアは宮辰夫選手（アコーディア・ゴルフ習志野CC）で、みんな関東勢でしたね。

――日本ジュニアでも関東ジュニアを制した長澤愛羅選手が女子12～14歳の部を勝ち、オープン競技では日本シニアオープンのローアマは高橋雅也選手（嵐山CC）、昨年の全米女子アマで優勝して日本女子オープンのローアマにも輝いた馬場咲希選手もTEAM KGAジュニア出身です。関東勢がこれほど日本タイトルを獲得した背景を選手たちに聞くと、KGAの競技のコースセッティングに育てられたという声もよく聞きます。

内藤正幸　試合でのコースセッティングは選手に喜んでもらうのが我々の願いで、競技委員会の中でも重要なものとして位置付けています。それが日本タイトルの舞台にもつながってくれればと思っているので、そのように言われているのならうれしい。ただ、プロのトーナメントなどは試合のためにコースをお借りするのに対し、KGAの競技はゴルフ場が一般のお客さんを対象に運営している中で行います。そのためにコースセッティングも、ホールロケーション、ティーマーカーの位置、距離のセットなどに限られます。フェアウェイの幅やラフの深さまで

2022年日本女子シニアゴルフ選手権

2022年日本女子ミッドアマチュアゴルフ選手権

はお願いできないので、競技用として作りこむのは80％くらいまでです。

近賀博子　距離のセットなどはどのように考えて決めているのですか。

内藤　基本的にはフェアであることをまず考えます。関東アマならティーイングエリアから280～300ヤードくらいの地点からグリーンを見て、パー4のホールならそこからのセカンドショットを想定して難易度を考えていきます。関東女子なら250ヤードくらいの地点、女子シニアなら200～210ヤード、女子グランドシニアなら180ヤードくらい。競技委員会ではそのようなことを決めながら、セッティングの基準を作っているわけです。この話をし始めると、おそらく何時間たっても終わりません。特に女子のセッティングは難しい。球の高さが男子ほど上がらないから、グリーン上で止めることができる選手が少ない。だから、奥につけたら順目の下りが残るようなグリーンでは、ホールロケーション（以下、HL）を奥にすることを考えたりします。

2022年日本シニアゴルフ選手権

近賀　ティーショットの距離を想定してセッティングを決めていることに、なるほどと思いました。圧倒的な飛距離がなくてもスコアをまとめてくる女子が多くいるのも、そのようなセッティングが背景にあるわけですね。

内藤　例えば飛距離のある選手がパー5で2オンを狙ってくる場合もありますが、グリーンに乗っても乗った位置によっては3パットの可能性が高いところにHLを設定するケースもあるわけです。近賀さんが昨年勝った関東女子シニアの舞台となった富士カントリークラブの18番は、まさにそのようにセットしたわけですが、近賀さんは絶対的な飛距離があるにもかかわらず、手前から攻めてバーディーを取った。そのような組み立てを分かっていたのですね。飛ばす人だけのことを考えても駄目だし、飛ばない人のことだけを考えても駄目。飛ぶ人で2オンを狙う人はそれなりに難しくなり、飛ばない人でも3オンを狙った方が有利なようなHLにするわけです。それがフェアということになりますから。

近賀　飛距離を競う競技ではないので、ティーショットをむやみに飛ばすよりも、距離を抑えた方がスコアにつながることもあるというのがよく分かりました。

内藤　それが分かると、もっと勝たれちゃいますね（笑）

競技委員長と戦うゲームでもある

内藤　我々もそれは気にしますよ。特に水上さんのような選手には、最初からHLを読まれてしまうと思っている。そういうのを読まれないように、その日の天候とかグリーンのスピードなども考えながら決めています。よく言われるけど、競技委員長と戦うゲームでもあるので、そこは裏も読まれないようにというのはありますよ。

近賀　内藤さんは長年やっていますから、そういうのはよく分かっていますよね。

内藤　だから気を抜いたことはありません。何よりも怖いですから。間違ったHLはプレーの流れを詰まらせることもあるので、特に4日間競技なら初日、2日目は選手の数も多く、いかにスムーズに試合を進められるか

水上　でも、内藤さんが決めるHLは想定するのが難しいです。グリーンのアンジュレーションがきついコースなどでは、4日間競技なら各日のHLは最初から決まっていることが多く、それも頭に入れながら試合に臨んでいるのですが…。

ホールロケーションは様々な要素を加味して決められる。

も考えます。

水上　ＨＬでいえば、昨年勝った鬼ノ城カントリー倶楽部（岡山）での日本シニアでは、こんなエピソードがありました。岡山県の友人が練習ラウンドを一緒に回ってくれて、鬼ノ城ＣＣでの試合によく出ているので『最終日のＨＬはここになるよ』と教えてくれたんです。ところがいざ本番になると、そのＨＬがすべて２日目に切られていた。コース管理の人に聞くと、予選落ちする人にも最終日のＨＬを味わってもらいたくて変更したと。そういうこともあるんですね。驚きました。

――ＨＬは当日になって変更することもあるのでしょうか。

内藤　風が強いと、そういうこともありますね。傾斜が強いグリーンだと、球が風で動いてしまうこともあるので、そのような時はＨＬを変更します。そのために競技委員も各ホールを回り、風で動くかをチェックしています。

近賀　基本的なことですが、競技を開催するコースはどのように決めているのでしょうか。

内藤　ＫＧＡの競技委員会の中にコース選定部会というのがあり、毎年６月に１都10県の代表者の方々に部会に来ていただき、次の年の試合のコースを協議します。競技によって必要とされる距離が変わってきますし、地域性など総合的に判断して決めていきますね。倶楽部対抗ですと、予選を行うコースは

グリーンキーパーは大きな存在

――グリーンキーパーとのコミュニケーションも密にしていますよね。

内藤　例えば先ほど話に出た関東女子シニアの富士カントリークラブは、標高が高くて乾燥しやすく、グリーンも固くて、順目と逆目もすごくてスピードも速い。そのようなコースでＨＬを間違えると、良いショットが良い結果にならず、時間もかかる。だからグリーンキーパーにお願いして、スピードが出すぎないようにお願いしました。

水上　確かに２０００年代前半の試合などでは、グリーンの固さもラフの深さも考えられないくらい厳しいコースがありました。フェアウェイから打った球が手前のエッジに落ちたにもかかわらず、転がって奥に行ってしまうこともあった。

内藤　そのようなことがあるから、グリーンキーパーとのコミュニケーションが大切になるわけです。私がカナダでの４カ国対抗競技に選手として行った時に、競技終了後のパーティーで最も上座に当たる席がひとつ空いていたんです。カナダゴルフ協会の会長が座るのかなと思っていたら、そこにグリーンキーパーの方が来て座った。そして協会の会長が『この競技が素晴らしい試合になったのは、あなたのおかげです。選手の皆さん、お礼を言いましょう』と称えたのです。それが当時としてはとても衝撃的で、グリーンキーパーのポジションはそれほど高いんだと思った。ＫＧＡの競技で表彰式にグリーンキーパーを必ず招き、ひと言いただくのは、そのような経験があるからです。朝早くから夜遅くまでコースを整備してくれて、本当にありがたいと思います。

近賀　そのような話を伺うと、入賞できなくても、時間に余裕があれば表彰式に出たいと思います。試合を開催するために力を尽くしてくれた人たちへの感謝を忘れてはいけませんね。

内藤　コースセッティングにはこれが正しいというものはなく、そこのコースに対して合わせなければいけないから、そのようなコミュニケーションは一層、重要なのです。

――ＫＧＡには世界に通用するゴルファーを育成する目標もあります。そのためにも、コースセッティングは一層重要になっていくのではないかと思います。

近賀　昨年はマレーシアで開催された国際競技の女子シニアアマに出場しましたが、気温が高くて高麗グリーンはカチカチ。洋芝のフェアウェイは逆に雨で湿っていて、日本と違うことを実感しました。個人戦に優勝はできましたが、現地の選手はグリーンを外していてもパターでピンを狙ってきたり、このようなコースを経験しているからこその攻め方があって、みんな上手でした。

昨年、ザ・ロイヤルGCで行われた関東アマチュアゴルフ選手権。同GCの楠本隆グリーンキーパー（写真中）と一緒にコースセッティングを行う内藤委員長（写真左）。

内藤　海外のコースは芝生などが全然違いますからね。海外の選手はそういうコースで子供の時からやっているから、その差はやはり大きい。ただ、今はウェッジも度数が２度刻みくらいで細かく用意されているから、選手はそういうのも合わせてコースと戦いながら引き出しを多く持てるようにしていく必要はあると思います。

トップに立ったからこそ、謙虚に

――最後に、日本タイトルホルダーの水上、近賀両選手に、これから目指すことを。

水上　65歳までは試合に出て戦おうと思っています。ただ、そのためには体が健康で、仕事も順調でなければできません。特に３日間や４日間の競技では普通に仕事をしていると体力が持たないでしょうから、体も鍛えていかないといけない。今は56歳ですが、同年代の人より体力があると言われるくらい、しっかりやっていきたいと思います。また、自分は家族や友達とラウンドするのが凄く好きなんです。試合で同じ組になった人から、水上さんと一緒に回ってみたかったと言われることもあるので、そのようなゴルファーを目指したい。ゴルフがうまくなるほど謙虚になりたいと思っています。

近賀　水上さんは息子さんの奥様（水上美慧さん）も２０２１年に関東女子ミッドアマ、日本女子ミッドアマに優勝して、すごいファミリーですよね。私の目標は、とりあえず55歳まで試合に出ることです。あと２年ですけど、その年になっても若い人についていけるように、体力をつけていきたいと思っています。

水上　何をおっしゃいますか。近賀さんは55歳を超えても十分にできますよ。60歳からはグランドシニアもありますし、65歳まではできますよ。

近賀　でも、今の女子グランドシニアを見ていると強い先輩ばかりで、自分は大丈夫かなと思ってしまいます。それに、水上さんと同じで、おこがましいかもしれませんが、ここ数年は私と一緒に回りたいと言ってくれる人もいて、本当にありがたいと思っているんです。トップに立ったからこそ、謙虚になることを忘れずにゴルフをしていきたいと考えています。

内藤　それが本当のアマチュアですよ。アマチュアほどカッコよく、何事もさりげなくやるべきです。アマチュアには引退もないので、体調を整えてゴルフを長く続けてほしいと思います。うまい選手は多くいますが、技術も心も、すべてそろっている本当に強いチャンピオンがさらに多く出てくれば、ゴルファーの数はもっと増えます。今年も日本女子アマは飯島早織選手（扶桑ＣＣ）、日本アマは中野麟太朗選手（早稲田大）と関東勢が制しました。日本タイトルを獲得した選手たちの共通点は、みんなゴルフが好きで真面目なことです。そのような選手たちがＫＧＡのコースセッティングの中でもまれて、一層強くなってくれるよう、我々も努力していきたいと思います。

写真提供／日本ゴルフ協会（19ページ掲載）

広報委員会委員長 近藤勇樹インタビュー

ゴルフ振興事業をはじめKGAの活動をしっかりお伝えします。

――近藤委員長は、日本ゴルフ協会（JGA）でも理事、広報委員長、ゴルフ振興推進本部・情報シェアリング部会長を務められています。関東ゴルフ連盟（KGA）の新広報委員長として何をされるのか。抱負をお聞かせください。

近藤委員長　前広報委員長である吉田裕明副理事長とは、同学年で若い頃からの友人です。JGAでも、ゴルフの振興のため、一緒に活動しています。今年のKGA広報委員会の事業計画の中に「ゴルフ振興推進に関わる情報収集及び発信」という文言が加わったように、機関誌の『ゴルファーズニュース』の中で、様々な振興活動を紹介し、ゴルフが社会と皆さまの役に立つことを伝えたいと考えています。

――『ゴルファーズニュース』はこれまで、競技を中心に編集されてきました。

近藤委員長　競技は、KGAの活動の柱です。ですから、その編集方針に変わりはありません。ただ、競技者の中には、子育てが一段落してからクラブを握った女性など、ゴルファーとしての様々な背景があります。この方々のゴルフへの取り組み方をお伝えすることも、ゴルフの振興につながると思います。

――これが掲載される号には、新設されたゴルフ振興委員会「ゴルフと健康部会」と「女性とゴルフ部会」の両部会長の紹介、ワールドハンディキャップシステム（WHS）普及のためのハンディキャップ委員会による座談会、競技委員長とベテラン競技ゴルファーの鼎談など、KGA内の委員会、部会の活動を伝える特集が組まれています。

近藤委員長　各委員会、部会の活動を紹介し、KGAが今、何をしているかを伝えることが、広報委員会の重要な役割です。また、KGAは加盟倶楽部の皆さまによって支えられています。加盟倶楽部の様々な情報を掲載することで集客増などの役に立ち、ひいては加盟倶楽部数の増加につながれば、と願っています。

近藤勇樹　1958年（昭和33年）生まれ。東京都出身。KGA常務理事。左は前広報委員長の吉田裕明副理事長。

名物ホールのひとつ、14番パー5

新規加盟倶楽部のご紹介

セブンハンドレッドクラブ
Sevenhundred Club

「みんなが幸せを実感できるゴルフ場」を目指して

〒329-1414　栃木県さくら市早乙女2370
TEL：028-686-0700　FAX：028-686-3606
理事長：小林 隆行　支配人：渋谷 和敬
開　場：1980年5月25日
コース設計●和泉 一介
コース規模●18Holes Par72

「みんなが幸せを実感できるゴルフ場、みんなで行きたくなる広大なゴルフ場、世界一何でもできるゴルフ場」をテーマとした当倶楽部は、栃木県の中心部よりやや北東に位置する「さくら市」にあり、東北自動車道／宇都宮ICより20㎞／33分、上河内スマートICより15㎞／28分の立地にございます。コースは、名匠和泉一介氏による設計で、100万平方メートル（約30万坪）という広大なスペースに18ホールとゆったりとしたレイアウトとなっております。趣のある林間ホール、池が絡んだ美しくスリリングなホールが次々と展開し、プレーヤーの挑戦意欲を掻き立てることと思います。ブルー、ホワイト、グリーン、オレンジの各ティーインググエリアがあり、使用するティーイングエリアによって、各ホールの貌は変わってきます。

クラブハウス

　また、フットゴルフの常設コースとしては国内初となり、サッカー漫画「キャプテン翼」原作者の高橋陽一氏（一般社団法人日本フットゴルフ協会の公式アンバサダー）の監修による2つの常設コースがお楽しみいただけます。このうちアドベンチャーコースは、ほどよい傾斜や林間を使い、冒険心をそそるコース設定です。大人から子供、女性まで幅広い世代が同時に楽しめるコースです。もう一方のドリームコースは、パー設定72ながら、ホールインワンのチャンスがあるショートホールや、タフなロングホールを多く設定しています。また、「挑戦状ホール」と称した打ち下ろしホールなど、フットゴルフの醍醐味を満喫できるまさに夢のようなコースです。

　この度、関東ゴルフ連盟に加盟させていただきまして、より一層責任感をもち、当倶楽部のコンセプトである「みんなが幸せを実感できるゴルフ場」を目指して、スタッフ一同精進して参ります。今後とも何卒宜しくお願いいたします。

ザ セイントナイン東京 The Saintnine Tokyo

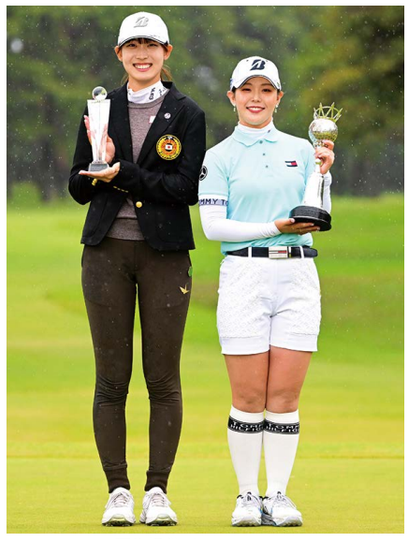
〒290-242　千葉県市原市中高根1418
TEL＆FAX：0436-95-0909
理事長：カンホチャン
支配人：福原 弘太郎　開場：2021年11月1日
コース設計●株式会社 M&K
コース規模●18Holes Par72

新常務理事のご紹介

15名の常務理事が委員会活動及び1都10県の各エリアを担当

常務理事氏名

（上段左から）　神澤 陸雄　志村 和也　寺本欣一治　松本 典文　濱口 勝郎　木村 玄一
（下段左から）　近藤 勇樹　海老原寿人　笠川喜久男　菅 千太郎　内藤 正幸　平本 桂樹
　　中島 敬夫
（別掲写真左から）髙頭 正毅　齋藤 超



画像提供／Getty Images

TKJ出身の吉田優利と馬場咲希が揃って戴冠！

日本女子プロゴルフ協会公式競技「ワールドレディスチャンピオンシップ サロンパスカップ」で優勝とベストアマを獲得

5月4日～7日、茨城ゴルフ倶楽部西コースで行われた、日本女子プロゴルフ協会（JLPGA）の公式競技「ワールドレディスチャンピオンシップ サロンパスカップ」で、TEAM KGAジュニア出身の吉田優利（プロ）と馬場咲希（現ナショナルチームメンバー）がそれぞれ優勝とベストアマのタイトルを獲得しました。

ふたりは昨年12月発行の『KGA GOLFER'S NEWS 139号』の特集企画で対談、表紙を飾ったばかり。そのふたりの晴れやかな2ショット写真が再度見られることになりました。

JLPGA公式競技優勝により吉田は3年間のシード権を獲得。かねてから“将来の目標”としていた米女子ツアー挑戦のステップとなる可能性があります。

今季ふたりは海外メジャーのプレー機会も多くあります。さらなる朗報が待たれます。

2023年KGAジュニア・ゴルフスクール開講

2023年KGAジュニア・ゴルフスクールはJGAジュニア会員の小学生（4～6年生）、中学生、高校生を対象に3月27日に相模カンツリー倶楽部、袖ヶ浦カンツリークラブ新袖コース、4月3日に鷹之台カンツリー倶楽部の3会場でスクールを開催しました。

相模CCには中・上級者の小学4年～6年生が69名、袖ヶ浦CCには中・上級者の中学生～高校生81名と初級者の小学4年生～高校生が16名、鷹之台CCには中・上級者の中学生～高校生83名と初級者の小学4年生～中学生が19名、合計268名が参加しました。

本年も感染症対策のため、クラブハウスへの入場禁止。開講式、規則・マナー講習、閉講式はなしという制約のもとでの開催となりました。

中・上級者は18ホールスループレーとし、指導委員が規則やマナーを直接指導。また、初級者は午前中にドライビングレンジ、アプローチ練習場、練習グリーンで基礎を学んだあと、午後は指導委員が帯同し、3ホールをプレーしました。

初級者の練習風景。スクールでは、TEAM KGAジュニアのコーチでもある重田栄作参与を含む、ジュニア育成委員会の指導委員が基礎からひとり一人に丁寧な指導が行われました。

前広報委員会参与 福島靖氏ご逝去

福島靖さんの思い出

関東ゴルフ連盟　吉田裕明副理事長

「日本ゴルフ史の生き字引」である福島さんが、亡くなられた。奥様によると、5月21日朝、起こしにいったら亡くなられていたという。常に穏やかな笑顔を湛えた方だった。90歳。福島さんらしい大往生だったと思う。

福島さんは、戦後、ゴルフ記者の草分けとして新聞界で活躍された。当時の記者は、ルールも知らない「素人」が多かった。それをゴルフ界の重鎮だった小寺西二さんが、手取り足取り教えてくれたのだと言う。何度もその話をされる福島さんは、懐かしそうで嬉しそうであった。

福島さんは、日本ゴルフ協会や関東ゴルフ連盟などの記念誌の編纂にも関わり、我々後進に多くの事を教えてくれた。今も目を瞑ると福島さんの静かで穏やかな笑顔が浮かぶ。

有難うございました。安らかにお眠りください。

東京ゴルフ倶楽部史料室にて。左は同史料室長（現・史料室部会長）水野勝之氏。

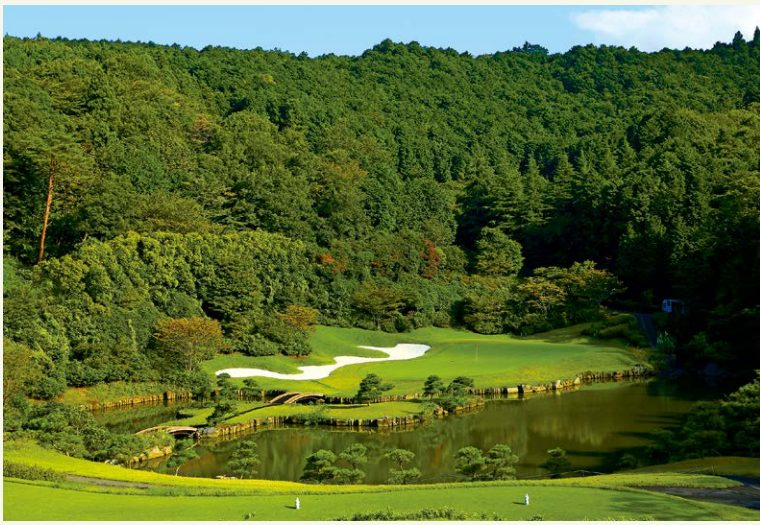
編集後記

小学校入学以来の親友である吉田裕明副理事長から広報委員長の任を引き継ぐことになりました。

今号では新体制、常務理事制度の導入、振興事業に加えて、関東アマチュアゴルフ選手権、関東女子ゴルフ選手権等、競技の結果を詳しくお伝えしています。

いつも取材に行って下さる広報委員、参与の方々、事務局の担当職員、そして何よりこの『KGA GOLFER'S NEWS』を手に取ってお読みいただく皆さま、今後ともよろしくお願い申し上げます。

（広報委員長・近藤勇樹）



グランフィールズカントリークラブ
〒411-0000
静岡県三島市五輪4716
TEL：055-976-3111

総武カントリークラブ　総武コース
〒270-1337
千葉県印西市草深302
TEL：0476-46-7111

Photograph by Taku Miyamoto

KGA GOLFER'S NEWS

2023年7月31日発行
KGA GOLFER'S NEWS　No.140
発行所／一般社団法人 関東ゴルフ連盟
〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目18番11号
銀座SCビル4階
TEL 03-6278-0005　FAX 03-6278-0008
ホームページ https://www.kga.gr.jp
発行人／佐藤敏明　編集／広報委員会